

十五夜



秋の夜空に名月輝く

お月見は旧暦の8月15日に月を鑑賞する行事で、この日の月は「中秋の名月」、「十五夜」、「芋名月」と呼ばれています。月見の日には、だんごや餅、スキ、サトイモなどをお供えして月を眺めます。

最近の研究によると、中国各地では月見の日にサトイモを食べることから、もともとはサトイモの収穫祭であったという説が有力となっているようです。その後、中国で宮廷行事としても行われるようになり、それが日本に入ってきたのは奈良～平安時代のようなようです。

日本では8月15日だけでなく9月13日にも月見をする風習があり、こちらは「十三夜」、「後の月」、「栗名月」とも呼ばれています。十三夜には、月見団子の他に栗や枝豆をお供えします。各地には「十五夜をしたなら、必ず十三夜もしなければいけない」という言葉が伝えられており、片方だけの月見を嫌う風習もあるようです。十三夜の風習は中国にはなく、日本独自のものです。

写真：塩追付近から不知火海を望む

